

NUBIC知的財産情報開示

開示日： 2009年02月27日

各位

NUBIC知的財産情報の要約をお届けいたします。
尚、NUBICベンチャークラブ特別会員、一般会員にはすでにお知らせしています。

	NUBIC管理番号: <input type="text" value="2008000052"/> 整理番号 <input type="text" value="11301"/> 担当者 <input type="text" value="峯崎 隆司"/>
表 題	<input type="text" value="向流クロマトグラフィー分離用隔室チューブ"/>
技術分野	<input type="text" value="化学・薬品"/> <input type="text" value="食品・バイオ"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
適用製品	<input type="text" value="天然物由来の生理活性物質, タンパク質, 糖類などの生体物質, 有機合成物質"/>
目 的	<input type="text" value="向流クロマトグラフィーは充填剤を使用しないため, 充填剤との相互作用により吸着, 変性してしまう物質の分離・精製に有用である。高速向流クロマトグラフィー(HSCCC)ではテフロンチューブをコイル状に巻き付けて作製したカラムが分離に使用されるが, 本発明の向流クロマトグラフィー分離用隔室チューブは, 通常用いられる市販のテフロンチューブと比較して分離効率を向上させることができ, より分離効率の良いHSCCCを提供する。"/>
技術概要	<input type="text" value="分離効率の改善には, 試料物質の固定相と移動相との間における分配効率を上げることが必要である。そのためには, 固定相溶媒の一定量以上のカラム内への保持と, 固定相と移動相の接触面積の拡大のための攪拌, 移動相の移動のための分相を速やかにかつ多数回行うことが要求される。
本発明は, コイル状カラム内での二液相の攪拌の拡大を目的として市販テフロンチューブに止血かん子で等間隔に狭窄部を作り隔室を形成し, 等体積の隔室が多数個連続するチューブとしたものである。この隔室チューブで多層コイルを作製し, 分離カラムとしてHSCCC装置に装着して水性二相溶媒によるタンパク質分離を行った結果, 良好な分離が達成された。"/>

技術移転等をご希望の場合は、下記事項をご記入の上、本用紙にてお申込みください。

(FAX, e-mail, 郵送いずれでも可。)

各担当コーディネーターからご連絡を差し上げます。

面談希望日時	<input type="text"/>		
(ふりがな) 氏 名	<input type="text"/>		
会社名	<input type="text"/>		
所 属	<input type="text"/>	役職	<input type="text"/>
電話番号	<input type="text"/>	FAX番号	<input type="text"/>
E-mail	<input type="text"/>		
連絡事項	<input type="text"/>		



【申込み・問い合わせ先】

日本大学産官学連携知財センター(NUBIC)

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 日本大学会館

TEL:03-5275-8139 FAX:03-5275-8328 E-mail:nubic@nihon-u.ac.jp